宮崎大学教育文化学部紀要　社会科学　第26・27号（2012）21－38頁

ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンの第二遺言書(1441年)
――前編――

中堀博司

Le second testament du duc de Bourgogne Philippe le Bon (1441) : Première partie

Hiroshi NAKAHORI

1．はじめに

「西洋の大公」(Grand duc d'Occident) とも称されるブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボン (善良公) は、1396年７月31日にディジョンで生まれ、同市のサント・シャペル (Sainte Chapelle de Dijon、「聖礼拝堂」) で洗礼を受けた。この時、父公ジャン・サン・プール (無畏公) は所謂ニコポリス十字軍に遠征中であった[1]。この父公ジャンが、ブルゴーニュ・オルレアン両党派間における内戦の最中、後のフランス王シャルル７世の策謀に斃れたのは1419年９月10日で、公フィリップ齢23歳の時である。また、フランス王との間に和解が成立するのが1435年９月におけるアラス協定においてで、同公39歳の年であった[2]。

この間、公フィリップは、第１妃ミシェル・ド・フランス (1422年没) と第２妃ボンヌ・ダルトワ (1425年没) の二人の公妃に先立たれ、1430年１月７日に第３妃となるポルトガル王女イザベルIsabelle (エリザベトElisabeth) と結婚した[3]。フィリップ33歳の時である。この結婚の際に金羊毛騎士団が創設されたことはよく知られるところである[4]。しかし同公にとって３度目の結婚の後も、必ずしも順風ではなかった。後に突進公 (本来は豪胆公) として知られるシャルルは第３子であり、1432年に２人の嫡子を続け様に失くしている。念願の公位継承者シャルル・ル・テメレールが1433年11月11日にディジョンで生まれた時、既に公フィリップは37歳で、公妃イザベルは36歳を目前にしていたのである[5]。

本稿で紹介する公フィリップ・ル・ボンの遺言は、ブルゴーニュ公家の家督相続問題の解決に一応の見込みがつき、本家にあたるフランス王家と差し当たりの和解が成立し、ブルゴーニュ公国北部の領域ブロックの特に神聖ローマ帝国側に領土を拡大する途上で認 (したた) められたものである。

四代のヴァロワ家ブルゴーニュ公が残した遺言は、初代公フィリップ・ル・アルディ (豪胆公) の1386年のものと、第３代公フィリップ・ル・ボンの1426年および1441年の二つをあわせて計三つが存在し、それらはすべてリル会計院の置かれた都市リルのノール県文書館 (Archives départementales du Nord = ADN) に伝存している[6]。実はこれらすべての遺言書が既

に刊行され、これまで多くの歴史家が目を通してきたことも間違いないであろうが、詳細な分析が行われた様子はなく、1426年に作成された第3代公フィリップの最初の遺言（ここでは「第一遺言（書）」と記す）については、当該期フランス諸侯の遺言書を体系的に分析したM.ゴド=フェラギュによって2008年に刊行されたばかりである[7]。因みに初代公フィリップの遺言はU.プランシェ師によって、また、第3代公の二つ目の遺言（ここでは「第二遺言（書）」と記す）はG.ペニョによって刊行されているものの、後者についてはその重要性にもかかわらず部分的な翻刻にしかすぎず、詳細を知るためにはノール県文書館に所蔵される未刊行史料を直接参照しなければならない[8]。それがここに遺言書全文を翻刻する所以である。

2．史料の伝来および概要

ヴァロワ家第3代ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンの第二遺言書は、ブルゴーニュ公国の南北に隔たった支配領域のちょうど狭間にあたるルテル（Rethel）[9]において1441年12月8日に作成された。上述の通り、同公30歳直前の1426年7月4日に第一遺言書が作成されており、その第一遺言の内容を更新するために作成されたものである。既に公フィリップは45歳になっており、第一遺言から15年の時が経過している。第一遺言書の作成は、未だ直系男子相続人もなく父公ジャン・サン・プールの殺害（1419年）からアラス協定（1435年）に至るまでのブルゴーニュ公にとって極めて厳しい情勢下でのことであったのに対し、ここで紹介する第二遺言書の場合、念願の嫡子シャルルも生まれて成長し、同公の身辺も安定しつつあったことが再度の作成の大きな要因だと思われる。初代公フィリップ・ル・アルディが1386年9年13日に44歳で遺言書を作成したことを考えあわせると、50歳を目前に控え、第一遺言書を考え直すのに機が熟したと言うべきかもしれない[10]。

本史料はリル会計院由来のまとまった史料体である「リル会計院文書」（fonds de la Chambre des comptes de Lille）に含まれるもので、ブルゴーニュ公の宮廷にかかわるその他の遺言書をはじめ、婚約書等もノール県文書館の複数のカートン（箱）に保管されている。また同史料は、その他の同種の史料同様に、所謂大判の羊皮紙一枚に作成されたもので、大きく欠けてはいるが公の印章も残され、公の自署もみられる。本文自体は全122行にも及び、«Item»を目安に条項番号を付せば、序文・跋文を除いて 全37条項から構成される。史料の内容は以下に掲げる表の通りである。詳細な史料分析については別稿に譲り、以下では前編にあたる本稿に関係する限りで概略を述べておきたい[11]。

まず、公フィリップが墓所に選んだのは、初代公フィリップ・ル・アルディが創建したディジョン西郊のカルトジオ会シャンモル修道院で、謀殺された父公ジャン・サン・プールの傍らに眠ることを望んだ（第2条項）。父ジャンとフィリップ・ル・ボン本人の墓および横臥像を早期に製作することも望んだようであるが、現在ディジョン市立美術館に所蔵される名高き『ジャン・サン・プールとマルグリット・ド・バヴィエールの墓』が1443年から1470年までの間に製作されていることからすれば、本遺言書作成後に製作が始まった公ジャン夫妻の墓は、その孫シャルル・ル・テメレールの治世に入ってようやく完成したことになる。公シャルルは早くも1477年に戦死し、ブルゴーニュ公領はフランス王の統治下に入ってしまうので、栄華を誇った公フィリップ・ル・ボンの墓自体については、その父母や祖父のものに匹敵するような見事なものは結局製作されることなく終わったのである[12]。

表　フィリップ・ル・ボンの第二遺言書（1441年12月８日）

※ADN, B 456, no. 15764. Cf. PEIGNOT, G., *Choix de Testamens anciens et modernes, remarquables par leur importance, leur singularité, ou leur bizarrerie, avec des détails historiques et des notes* , Paris, Renouard ; Dijon, V. Lagier, 1829, t. 1, p. 102-114.
※※L.t.＝トゥール貨リーヴル　F＝フラン

条項番号	条項主題	摘要
	［作成場所］	ルテル
	［作成年月日］	1441年12月8日（フィリップ・ル・ボン45歳）
1	霊魂の救済	主に霊魂を委ねる。また、聖母マリア、聖アンドレ、天国の全聖人・聖女への帰依。
2	墓所	ディジョン郊外カルトジオ会シャンモル修道院の父公ジャン・サン・プールの傍らに。父公と公本人の墓および横臥像をできる限り早く製作し、完成させること。
3	負債返済	公の全負債を財産主要部分から早期返済すること。
4	シャンモル・カルトジオ会	シャンモル修道院に対し、命日ミサおよび毎日のミサのために償還定期金100L.t.（基金は国王良貨1,500F）。加えて、公本人、故父母、故第二妃ボンヌ・ダルトワの霊魂救済のミサのために、同じく償還定期金100L.t.（基金も同額国王良貨1,500L）。
5	シャンモル・カルトジオ会	同上シャンモル修道院に対し、償還定期金の購入に充当されるべき基金国王良貨2,000F。これは既に寄付済の2,000Fに加えて与えられ、修道院の維持・修復等に充当。
6	ボーヌ・カルトジオ会	ボーヌ・カルトジオ会修道院に対し、公本人および先祖・子孫の霊魂救済のミサのために償還定期金100L.t.（基金は国王良貨1,500F）。
7	リュニィ・カルトジオ会	リュニィ・カルトジオ会修道院に対し、公本人および先祖・子孫の霊魂救済のミサのために償還定期金60L.t.（基金は国王良貨900F）。
8	シトー修道院	シトー修道院に対し、公本人、公妃、故第一妃・第二妃、先祖・子孫の霊魂救済のミサのために償還定期金100L.t.（基金は国王良貨1,500F）、等々。
9	クレルヴォ修道院	クレルヴォ修道院に対し、償還定期金100L.t.（基金は国王良貨1,500F）。
10	サン・タントワーヌ・アン・ヴィエノワ修道院	サン・タントワーヌ・アン・ヴィエノワ修道院に対し、償還定期金100L.t.（基金は国王良貨1,500F）。
11	サン・クロード修道院	サン・クロード修道院に対し、シトー修道院同様に、償還定期金100L.t.（基金は国王良貨1,500F）。
12	10司教座	ブザンソン、オタン、シャロン、マコン、オセール、アミアン、アラス、カンブレ、トゥルネ、テルアンヌの10司教座各教会に対し、命日の年ミサのために各300F（計3,000F）。
13	償還定期金について	定期金は各教会に対し与えた基金から償還される。公の相続人も文書をもって、封・裁判にかかわらない定期金として与えること。
14	13公・伯領の4托鉢修道会	ブルゴーニュ公・伯領、シャロレ、マコネ、オセロワ、ブラバント、リンブルフ、フランドル、アルトワ、エノー、ホラント、ゼラント、ナミュールの4托鉢修道会の各修道院に対し、命日ミサのために各20F。
15	アラス近郊の3托鉢修道会	アラス近郊のドミニコ会、フランシスコ会、カルメル会に対し、戦争で破壊された修道院建物の修復のため、それぞれ国王良貨400F、300F、300F（計1,000F）。
16	南部諸地方の施療院等	ブルゴーニュ公・伯領、シャロレ、マコネ、オセロワなど南部諸地方の貧しき教会や施療院等に国王良貨10,000F。
17	北部諸地方の施療院等	ブラバント、リンブルフ、フランドル、アルトワ、エノー、ホラント、ゼラント、ナミュールなど北部諸地方の貧しき教会や施療院等に国王良貨10,000F。

18	家政役人	家政役人に対し、その奉仕に報い、主への祈りため計20,000F。騎士ほか上級役人に10,000F、下級役人に10,000F。
19	公妃の寡婦産等	公妃に対する贈与・譲渡財産、寡婦産の充当等の効力確認。
20	家政上級役人	侍従ほかの家政役人に対してなした贈与・褒章・役職・定期金等は、与えられた当人存命中のみ所有できる旨。
21	包括相続人	嫡子シャロレ伯シャルルが包括相続人として全遺産を相続。直系相続人がいなければ、妹・甥・従兄弟等の最近親者へ。

（第22条項以下は「後編」の対象）

22	シオン山	フランドル伯位継承者は、シオン山（モン・シオン）のフランシスコ会修道士らに対し、500ドゥカート金貨。
23	非嫡出子 コルネイユ	非嫡出子（長子）コルネイユおよびその子孫に対し、ブラバント、フランドル、アルトワ、エノー、ホラント、ゼラントおよびナミュールから国王貨幣6,000Fの世襲定期金。
24	非嫡出子 アントワーヌ	非嫡出子アントワーヌおよびその子孫に対し、ブラバント、フランドル、アルトワ、エノー、ホラント、ゼラントおよびナミュールから国王貨幣2,500Fの世襲定期金。
25	非嫡出女子 マリオン	非嫡出女子マリオンに対し、婚資として国王貨幣15,000F。
26	ピエール・デュシェーヌ邸在住の別の非嫡出女子	ブラバント収入役Pierre du Chesne邸にいる別の非嫡出女子に対し、婚資として国王貨幣12,000F。
27	在フランドルの 別の非嫡出女子	在フランドルの別の非嫡出女子に対し、国王貨幣10,000F。
28	金羊毛騎士団	金羊毛騎士団について、建物の完成や旧騎士らのための定期金取得など残されたすべてのことを完遂。
29	ドル大学	ドル大学に1名の教師と12名の貧しき学生のための学寮創設。そのために最大10,000F。
30	尚書ニコラ・ロラン	尚書ニコラ・ロランおよびその相続人に対し、モンミレイの城塞等。但し、10,000サリュ金貨ないしは15,000Fでの買い戻しは可能。
31	旧トネール伯財産	オランジュ公が主張する旧トネール伯財産のシャテルブラン、オルジュレ等に関して、ドル高等法院での審理の可能性。
32	嫡子シャルルの後見	嫡子シャルルが未成年の場合の後見人：公妃イザベル（筆頭）、トゥルネ司教ジャン・シュヴロ、ブザンソン大司教カンタン・メナール、カンブレ司教ジャン・ド・ブルゴーニュ、尚書ニコラ・ロラン、筆頭侍従クロイ領主アントワーヌ、ブルゴーニュ元帥フリブール伯ジャン、 シャルニィ領主ピエール・ド・ボフルモン、エノー・バイイたるジャン・ド・クロイ、ルベ領主ピエールおよびサント領主ユーグ・ド・ラノイ、ブラバント尚書ジャン・ボン, フランドル高等バイイたるコラール・ド・コミーヌ、エチエンヌ・アルムニエほか。
33	遺言執行人	遺言執行人：公妃イザベル、オセール司教ロラン・ピニョン（遺言執行のため国王貨幣1,000F、ピニョン不在時はSelymbria司教Simon de Loosがその任にあたり、同500F ）、トゥルネ司教ジャン・シュヴロ、ブザンソン大司教カンタン・メナール、尚書ニコラ・ロラン、筆頭侍従クロイ領主アントワーヌ、ブルゴーニュ元帥フリブール伯ジャン、サント領主ユーグ・ド・ラノイ。また、上記のトゥルネ司教以下には100サリュ金貨相当までの宝石。
34	遺言の執行	当該遺言書の公表および執行について、ローマ教皇庁控訴院の教会裁判権とパリ高等法院の世俗裁判権への服従。
35	遺言の執行（続き）	直系嫡出相続人なく公本人および嫡子シャルルが亡くなった場合、当該遺言書に従って忠実に遺言執行する旨。それに異論を唱える者がいる場合、相続権剥奪。
36	遺言の執行（続き）	当該遺言書による遺贈が旧来の命令を退け、すべてに優先される旨。
37	当該遺言の効力	当該遺言書が正式な遺言書として効力をもち、その内容が完遂されなければならない旨。

次に、全体としてブルゴーニュ公領に近い修道院・教会機関に対し、定期金が設定されている。こうした世俗の君侯による慈善行為ないしは祈りの代償は極めて一般的なことであるが、公フィリップが、本人を始め妻や先祖・子孫の慰霊ミサのために選んだ修道院・教会機関は次の通りである[13]。筆頭は言うまでもなく菩提教会のカルトジオ会シャンモル(Champmol)修道院であり、その他同じくカルトジオ会のボーヌ(Beaune)やリュニィ(Lugny)の修道院、さらにシトー(Cîteaux)修道院、クレルヴォ(Clairvaux)修道院、そしてサン・タントワーヌ・アン・ヴィエノワ(Saint-Antoine-en-Viennois)修道院およびサン・クロード(Saint-Claude)修道院が挙げられる (第４～11条項)。

また、ブルゴーニュ公の支配領域の広がりが、次の10司教座での年ミサに象徴的に示されている (第12条項)。即ち、ブザンソン(Besançon)、オタン(Autun)、シャロン(Chalon)、マコン(Mâcon)、オセール(Auxerre)、アミアン(Amiens)、アラス(Arras)、カンブレ(Cambrai)、トゥルネ(Tournai)、テルアンヌ(Thérouanne)の各司教座教会である。これらの司教座が概ねブルゴーニュ公の掌中にあったことは既に指摘されている[14]。またブルゴーニュ公が統治する13公・伯領の4托鉢修道会にも命日ミサを指定している (第14条項)。さらに、南部と北部の領域ブロックにおけるそれぞれの施療院等への寄進もなされている (第16～17条項)。

この前編の最後には、嫡子シャロレ伯シャルルが全遺産を相続することとされ、包括相続人として指定されている (第21条項)。もし直系相続人がいなければ、妹・甥・従兄弟等の最近親者に財産がわたることとされた。概略以上の通りであり、以下に未刊行史料からの翻刻と試訳を試みたい。

３．史料原文と試訳

史料「ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンの第二遺言書」(前編)[15]

[序] 主の恩寵により、ブルゴーニュ、ロティエ、ブラバント、リンブルフの公にして、フランドル、アルトワ、ブルゴーニュ (宮中)、エノー、ホラント、ゼラント、ナミュール (神聖帝国辺境) の伯で、フリースラント、サラン、メヘレンの領主たるフィリップ [・ル・ボン][16] はこの当該文書を見るであろうすべての者に挨拶を送り、以下のことを知らしめる。即ち、死ほど確かで、死の時ほど不確かなことはないことを鑑み、また無遺言で没することを望まず、良きキリスト教徒として余の遺言つまり最終の意志の命令を以下の形で以下のように行い、これ以前に余がなした他のすべての遺言書、遺言補足書および最終意志の命令をはっきりと取り消す。但し、それらが当該文書の内容に実質的に合致し、同様である限りにおいては除外する。(Phelippe[17], par la grace de Dieu, duc de Bourgoingne, de Loth[ie]r[18], de Brabant et de Lembourg, conte de Flandres, d'Artois, de Bourgoingne, palatin, de Haynnau, de Hollande, de Zellande et de Namur, marquis du saint empire, seigneur de Frise, de Salins et de Malines. A tous ceulx qui ces p[rese]ntes l[ett]res [/1][19] verront salut. Savoir faisons que nous, considerans qu'il n'est chose plus certaine que la mort, ne plus incertaine que l'eure d'icelle, non voulans deceder intestat, mais com[m]e bon catholique, avons fait et faisons n[ost]re testament et ordonnance de derreniere voulenté par la forme et en la maniere qui s'ensuit, en revocant [/2] expressement tous autres testamens, codicilles et ordonnances de darreniere

voulenté que avons faiz par cy devant, fors entant qu'ilz seroient[20] conformes et semblables en substance au contenu de ces p[rese]ntes.)

[1] 第一に、余が他界することを主が望んだ時、余は余の霊魂を主に委ね、また、主の栄光を受けた聖処女マリア、我が主使徒聖アンドレ、そして天国のすべての聖人聖女に委ねる。(Et premierement, quant il plaira a Dieu que aillons de vie a trespas, nous lui recom[m]andons n[ost]re [/3] ame, a la benoite glorieuse Vierge Marie, a mons[eigneur] Saint Andry appostre et a tous les sains et saintes de Paradis.)

[2] 同じく、余の墓所を［次のように］定め、いかなる場所で他界しようとも、ディジョン近郊の余のカルトジオ会教会[21]に移送のうえ埋葬(*inhumé et sepulturé*)し、かつ主が召された余のいとも親愛なる亡き殿たる父の傍らに、大祭壇に向かって右手を墓とすることを望み命じる。万一何らかの理由ないしは必要から他所に置かれる場合、余は一時的に安置される以外、また、その後できるだけ早く、余が他界する前に異なるように命じない限りは上述のように余のカルトジオ会教会に移送し埋葬されることを望む。そして余の存命中に同様に製作し設置させない場合、余が命じて分けたのに従って、余の上述の父君殿と余の墓および横臥像が以下に指名される余の遺言執行人によってできる限り短期間で製作され、完成され、設置されることを望む。(Item, eslisons n[ost]re sepulture et voulons et ordonnons n[ost]re corps, quelque part que aillons de vie a trespas, estre porté, inhumé et sepulturé en n[ost]re egli[s]e des Chartreux lez Dijon au pres et a l'endroit de feu [/4] mon treschier seign[eu]r et pere cuy Dieu pardoint, en tirant droit vers le grant autel, et s'il avenoit que pour aucune cause ou neccessité feussions mis ailleurs, nous entendons que ce ne soit que par maniere de depost et que le plus tost apres que faire se pourra, soions porté et inhumé en n[ost]redicte egli[s]e des [/5] Chartreux par la maniere que dit est, ou cas que autrement n'en aurons ordonné avant n[ost]re trespas, et voulons les tombes et rep[rese]ntacions des sepultures de n[ost]reditseign[eu]r et pere et de nous estre faictes, accomplies et assises le plus brief que faire se pourra par noz executeurs cy dessoubz no[m]mez, selon que [/6] ordonnees et divisees les avons, ou cas que en n[ost]re vivant ne les ferions mesmes faire et asseoir[22].

[3] 同じく、以下のように望み命じる。余の他界時に余が負うすべての各々の負債は、それについて以下に指名される余の遺言執行人に正式に明らかになるであろうが、これら遺言執行人が余の財産の主要部分から余の霊魂の負担ができる限り早くしっかり軽減されるように支払い、かつ支払わせる。(Item, voulons et ordonnons que toutes et ch[asc]unes les debtes que devrons au temps de n[ost]re decez et dont il apperra deuement a noz executeurs cy dessoubz no[m]mez, iceulx executeurs paient et facent paier de et sur [/7] le plus cler de noz biens et le plus tost qu'ilz pourront bonnement a la descharge de n[ost]re ame.)

[4] 同じく、上述ディジョン近郊カルトジオ会の修道士ら、修道院長および二つの修道院に対し、トゥール貨100リーヴル［＝£］の償還定期金(*rente a[d]mortie*)[23]を遺贈する。この定期金の購入[24]について余の存命中にその者らに［定期金ないしはその元になる基金を］与

えなければ、余は以下のように望み命じる。即ち、国王良貨金額1,500フラン［＝F］が以下に指名される余の遺言執行人の命令によって余の他界後すぐに余の財産から上述の修道士らに支払い与えられ、それが上述トゥール貨100£ないしは先の金額で得られるだけの償還定期金の購入に換えられる。上述の修道士らはそれが故に余の命日（*obit et anniversaire*）にミサを挙げ、また余の霊魂の救済（*remede et salut*）のために当該教会での余の埋葬後すぐから同修道士らの一人によって毎日続けて慰霊ミサを挙げなければならない。これと同時に上述のディジョン近郊カルトジオ会の修道士ら、修道院長および二つの修道院に対し、別にトゥール貨100£の償還定期金を遺贈する。この定期金の購入について余の存命中にその者らに与えなければ、余は以下のように望み命じる。即ち、加えて国王良貨同額1,500£が余の上述の遺言執行人によって余の他界後すぐに支払い与えられ、それが上述トゥール貨100£ないしは先の金額で得られるだけの定期金の購入および取得に用いられる。その条件として上述の修道士らは、それが故に余がその者らに命じ、余とその者らがともに同意する通りに、もしくは、余の存命中にこれを命じ準備しない場合、余の他界後以下に指名される余の遺言執行人と修道士らとの間で準備され同意される通りにミサを挙げ、主が召された余の上述のいとも親愛なる殿たる亡き父君、余のいとも親愛なる奥方たる亡き母君、余そして余のいとも親愛なる伴侶たる亡き公妃ボンヌ・ダルトワの霊魂の救済のために信心のお務めとお祈りをさせなければならない。（Item, donnons et laissons aux religieux, prieur[25] et double couvent desdiz Chartreux lez Dijon cent [= 100] livres tournois de rente admortie, pour laquelle rente achater se en n[ost]re vivant ne leur baillons, nous voulons et [/8] ordonnons que la som[m]e de quinze cens [= 1,500] frans de bonne monnoie roial soit paiee et baillee de noz biens par l'ordonnan[ce] de noz executeurs cy apres no[m]mez tantost apres n[ost]re decez ausdiz religieux, pour icelle convertir par eulx en l'achat desdictes cent [= 100] livres tourn[ois] ou de tant qu'ilz en pourront avoir et acquerir pour icelle [/9] som[m]e, et lesquelz religieux seront tenuz de a ceste cause pour n[ost]re obit et an[n]iversaire dire et celebrer ch[asc]un jour perpetuelment par l'ung d'iceulx religieux une messe de requien a com[m]encier tantost apres n[ost]re enterrement en icelle egli[s]e pour le remed[e et] salut de n[ost]re ame, et avec ce donnons et laissons a iceulx religieux, p[ri]eur [/10] et double couvent des Chartreux lez Dijon autres cent [= 100] livres tournois de rente admortie, pour laquelle rente achater se en n[ost]re vivant ne leur baillons, nous voulons et ordonnons que la semb[lab]le som[m]e d'autres quinze cens [= 1,500] livres de bonne monno[ie r]oial leur soit paiee et baillee par nosdiz executeurs tantost ap[re]s n[ost]re decez [/11] pour l'emploier en l'achat et acquisicion d'icelles cent [= 100] livres tourn[ois] de rente ou de tant qu'ilz en pourront avoir pour lad[ic]te som[m]e, moiennant qu'ilz seront tenuz de a ceste cause dire et faire [ ][26] les services et menuz suffrages de devocion pour le remede des ames de feu n[ost]redit tresch[ie]rs[eigneur] et pere, de feu ma treschiere [/12] dame et mere, de nous et de feu n[ost]re treschiere et tresamee compaigne la duchesse Bonne d'Artois cuy Dieu pardoint, telz que leur ordonnerons et que nous et eulx s[er]ons d'accord ensemble, ou que apres n[ost]re decez s[er]a appoinctié et accordé entre noz executeurs cy apres no[m]mez et eulx ou cas que n'en aurions ordonné et [/13] appoinctié en n[ost]re vivant.）

[5] 同じく、以下のように望み命じる。即ち、国王貨幣2,000Ｆが一度に余の上述の遺言執行人によって余の他界後すぐに上述のディジョン近郊カルトジオ会修道士らに支払い与えられ、この金額はその者らによって永年償還定期金の購入に換えられる。この金額については、その者らが同様の理由で余から既に得ている2,000Ｆとは別に取得しうるものであり、この金額から修道士らは今後将来に及んで常にしっかりと十分にその修道院および建物全体を維持し、また戦争その他によって主が望むことなき取り壊しや廃墟となるに至った場合もしっかりと立派に再建しなければならない。(Item, voulons et ordonnons que la som[m]e de deux mil [= 2,000] frans monn[oie] roial pour une fois soit paiee et baillee par nosdiz executeurs tantost apres n[ost]re decez ausdiz religieux des Chartreux lez Dijon, pour icelle som[m]e convertir par eulx en achat de rente p[er]petuelle et amortie ce qu'ilz [/14] en pourront avoir, pour ladicte som[m]e oultre et pardessuz les deux mil [= 2,000] frans que ilz ont desja eu de nous pour semb[lab]le cause, et parmi ce s[er]ont tenuz et obligiez de bien et souffisa[m]ment retenir tout leur monastere et ediffices d'icelluy desmaintenant et pour le temps avenir a tousjours et aussi de le [/15] reediffier bien et notablem[en]t ou cas que par guerre ou autrement vendroit a demolicion et ruyne que Dieu ne vueille.)

[6] 同じく、ボーヌ近郊カルトジオ会の修道院長および修道院に対し[27]、創建基金への追加分としてトゥール貨100£の償還定期金を遺贈する。余の先祖代々、余そして余の子々孫々の霊魂がその者らの祈りに込められ共にするためである。この定期金の購入について余の存命中にその者らに与えなければ、余は以下のように望み命じる。即ち、国王良貨金額1,500Ｆが以下に指名される余の遺言執行人の命令によって余の他界後すぐに余の執行財産からその者らに与えられ、その金額1,500Ｆが上述トゥール貨100£ないしはこの金額で得られるだけの定期金の購入および取得に用いられる。そして、上述の修道院長および修道院はそれが故に同修道院の修道士の数を永続的に一人増やし、この修道士およびその務めを継承する者はとりわけその場所で常に余の先祖代々、余、そして余の子々孫々の霊魂の救済のために祈らなければならない。(Item, donnons et laissons aux prieur et couvent des Chartreux lez Beaune cent [= 100] livres tourn[ois] de rente amortie, en accroissement de leur fondacion et afin que les ames de noz [/16] predecesseurs, de nous et de noz successeurs soient comprinses et participans en leurs prieres, pour laquelle rente achater se en n[ost]re vivant ne leur baillons, nous voulons et ordonnons que la som[m]e de quinze cens [= 1,500] frans de bonne monn[oie] roial leur soit baillee par l'ordonnance de noz execute[ur]s cy apres no[m]mez [/17] des biens de n[ost]re execucion tantost apres n[ost]re decez, pour icelle som[m]e de quinze cens [= 1,500] frans emploier par eulx en l'achat et acquisicion desdictes cent [= 100] livres tourn[ois] de rente ou de tant qu'ilz en pourront avoir, et lesquelz prieur et couvent s[er]ont tenuz a ceste cause de croistre le nombre des fre[re]s [/18] d'icellui couvent d'un religieux a perpetuité, lequel religieux et ses successeurs en la religion s[er]ont tenuz de prier esp[eci]alment en icellui lieu a tousjours pour le salut des ames de nosdiz predecesseurs, de nous et de noz successeurs.)

[7] 同じく、バルブラン近郊リュニィのカルトジオ会の修道士ら、修道院長、修道院に対し[28]、トゥール貨60£の償還定期金を遺贈する。この定期金の購入について余の存命中にそ

の者らに与えなければ、余は以下のように望み命じる。即ち、国王良貨金額900Ｆが以下に指名される余の遺言執行人の命令によって余の他界後すぐに余の執行財産からその者らに与えられ、その金額900Ｆが上述トゥール貨60￡ないしはこの金額で得られるだけの定期金の購入および取得に用いられる。そして、上述の修道院長および修道院はそれが故にこの修道院の修道士の数を永続的に一人増やし、この修道士およびその務めを継承する者はとりわけその場所で常に余の先祖代々、余、そして余の子々孫々の霊魂の救済のために祈らなければならない。(Item, donnons et laissons aux religieux, prieur et couvent des [/19] Chartreux de Lugny les Barberans soixante [= 60] livres tournois de rente amortie, pour laquelle rente achater se en n[ost]re vivant ne leur baillons, nous voulons et ordonnons que la som[m]e de neuf cens [= 900] frans de bonne monn[oie] roial leur soit baillee par noz executeurs cy apres no[m]mez des biens de [/20] n[ost]re execucion tantost apres n[ost]re decez, pour icelle som[m]e de neufcens [= 900] frans emploier par eulx en l'achat et acquisicion desdictes soixante [= 60] livres tournois de rente ou d'autant qu'ilz en pourront avoir, et lesquelz prieur et couvent seront tenuz a ceste cause de croistre le nombre des fre[re]s [/21] d'icellui couvent d'ung religieux a p[er]petuité, lequel religieux et ses successeurs en la ladicte religion seront tenuz de prier especialment en icellui lieu a tousjours pour le salut des ames de nosdiz predecess[eur]s, de nous et de noz success[eur]s.)

[8]　同じく、シトーの修道士ら、修道院長そして修道院に対し[29]、トゥール貨100￡の償還定期金を遺贈する。この定期金の購入について余の存命中にその者らに与えなければ、余は以下のように望み命じる。即ち、国王良貨金額1,500Ｆが以下に指名される余の遺言執行人の命令によって余の他界後すぐに余の執行財産からその者らに与え引き渡され、その金額が上述シトーの教会および修道院のためこの修道士らによって上述トゥール貨100￡ないしは先の金額で得られるだけの定期金の購入および取得に換えられる。そして、このシトーの修道士らはそれが故にミサを挙げ、余と余の親愛なる伴侶で今いる公妃、主が召された亡き余の親愛なる伴侶ら公妃ミシェル・ド・フランスおよびボンヌ・ダルトワ、余の上述の先祖代々ならびに子々孫々の霊魂の救済のために余の他界後すぐから上述のシトーの教会にて毎日続けて慰霊ミサを挙げなければならない。そして上述のシトーの修道士ら、修道院長および修道院は、上述の通りこのミサを挙げ、上述修道院の司祭たる４人の修道士らを通じてこれを執り行う。この４人の修道士らを、上述の者らは上述のミサを毎週一人ずつ挙げるよう毎年命じる。この４人の修道士各々に対し、上述の修道院長および修道院は、毎年恒例のものに加えてその必要を充たすため半分を洗礼者聖ヨハネの祝日に、残りの半分をクリスマスに計10￡与えなければならない。これと同時に上述の修道院長および修道院は、余と上述した人々の霊魂の救済のために２回の年ミサ、つまり教会内陣における前夜ミサと翌朝大祭壇における慰霊ミサ［あわせたもの］を毎年続けて挙げさせなければならない。１回目の年ミサは余が他界した日ないしはその後次に来る祝日に、２回目はその半年後くらいに執り行い、その各年ミサにおいて上述［シトー］教会の修道院が上述したトゥール貨100￡からトゥール貨100ソル［＝ｓ］を食事のため受け取ることを望む。上述した定期金の残りトゥール貨50￡までが上述したシトー教会の共益として残される。(Item, donnons et laissons aux religieux, abbé et couvent [/22] de Cisteaulx cent [= 100] livres tournois de rente amortie, pour laquelle

rente achater se en n[ost]re vivant ne leur baillons, voulons et ordonnons que la som[m]e de quinze cens [= 1,500] frans de bonne monn[oie] roial leur soit baillee et delivree par l'ordonnance de noz executeurs cy apres no[m]mez des biens de n[ost]re [/23] execucion tantost apres n[ost]re decez, pour icelle som[m]e convertir par iceulx religieux en l'achat et acquisicion desdictes cent [= 100] livres tourn[ois] de rente ou de tant qu'ilz en pourront avoir et acquerir au prouffit de ladicte egli[s]e et monaste[re] de Cisteaulx, et lesquelz religieux de Cisteaulx [/24] seront tenuz de a ceste cause faire dire et celebrer ch[asc]un jour perpetuelment en ladicte egli[s]e de Cisteaulx une messe de requien a com[m]encier tantost apres n[ost]re decez pour le remede et salut des ames de nous, de n[ost]re treschiere et tresamee compaigne la duchesse qui est a p[rese]nt, de feues noz [/25] treschieres et tresamees compaignes les duchesses Michiele de France et Bonne d'Artois ausquelles Dieu face mercy et de nosdiz predecess[eur]s et success[eur]s, et laquelle messe lesdiz religieux, abbé et couvent de Cisteaulx s[er]ont tenuz de faire dire et celebrer com[m]e dit est par quatre [/26] religieux, p[re]b[st]res d'icellui monastere, lesquelz quatre religieux ilz ordonneront ch[asc]un an pour celebrer ch[asc]une sepmaine l'un apres l'autre ladicte messe, a ch[asc]un desquelz quatre religieux lesdiz abbé et couvent s[er]ont tenuz de baillier ch[asc]un an oultre leur ordinaire accoustumé dix [= 10] livres [/27] tournois pour aidier a supporter leurs neccessitez moitié a la Saint Jehan Baptiste et moitié a Noel, et avec ce seront tenuz lesdiz abbé et couvent de faire celebrer ch[asc]un an p[er]petuellement deux an[n]iversaires solennez pour le remede des ames de nous et des personnes dessusd[ic]tes, c'est assavoir [/28] vigilles au soir ou cuer de l'egli[s]e et landemain messe de requien a nocte ou grant autel, dont le premier an[n]iversaire se fera a tel jour que nous trespasserons de ce siecle ou le prouchain jour ferial apres, et le second a demi an apres ou environ en ch[asc]un desqulez an[n]ivers[air]es, voulons [/29] que le couvent de ladicte egli[s]e ait cent [= 100] solz tournois pour pitance qui se prendront desdictes cent [= 100] livres tournois, et le surplus deladicte rente qui monte cinquante [= 50] livres tournois demourra au prouffit com[m]un de la dicte eglise de Cisteaulx.)

[9] 同じく、同様に全く同じ負担でクレルヴォの修道士ら、修道院長および修道院に対し[30]、トゥール貨100 £の償還定期金を遺贈する。この定期金の購入について余の存命中にその者らに与えなければ、余は以下のように望み命じる。即ち、国王良貨金額1,500 Fが以下に指名される余の遺言執行人の命令によって余の他界後すぐに余の執行財産からその者らに与え引き渡され、その金額が上述クレルヴォの教会および修道院のため上述の負担においてこの修道士らによって上述トゥール貨100 £ないしは先の金額で得られるだけの定期金の取得に換えられる。(Item, semb[lab]lement et a toutes telles [/30] charges, donnons et laissons aux religieux, abbé et couvent de Clerevaulx cent [= 100] livres tournois de rente amortie, pour laquelle rente achater se en n[ost]re vivant ne leur baillons, voulons et ordonnons que la som[m]e de quinze cens [= 1,500] frans de bonne monnoie roial leur soit baillee et delivree [/31] par l'ordonnance de noz executeurs cy apres no[m]mez des biens de n[ost]re execucion tantost apres n[ost]re decez, pour icelle som[m]e convertir par iceulx religieux en l'acquisicion desdictes cent [= 100] livres tourn[ois] de rente ou de tant qu'ilz en pourront avoir et acquerir

au prouffit deladicte egli[s]e et mo[na]ste[re] [/32] de Clerevaulx et a la charge que dessuz.）

[10]　同じく、また同様に全く同じ負担でサン・タントワーヌ・アン・ヴィエノワの修道士ら、修道院長および修道院に対し[31]、トゥール貨100 £ の償還定期金を遺贈する。この定期金の購入について余の存命中にその者らに与えなければ、余は以下のように望み命じる。即ち、国王良貨金額1,500 F が以下に指名される余の遺言執行人の命令によって余の他界後すぐに余の執行財産からその者らに与え引き渡され、その金額が上述サン・タントワーヌの教会および修道院のため上述の負担においてこの修道士らによって上述トゥール貨100 £ ないしは先の金額で得られるだけの定期金の取得に換えられる。(Item, et aussi semb[lab]lement et a toutes telles charges, donnons et laissons aux religieux, abbé et couvent de Saint Anthoine de Viennois cent [= 100] livres tourn[ois] de rente admortie, pour laquelle rente achater se en n[ost]re vivant ne leur baillo[n]s, [/33] voulons et ordonnons que la som[m]e de quinz cens [=1,500] frans de bonne monnoie roial leur soit baillee et delivree par l'ordonnance de noz executeurs cy dessoubz no[m]mez des biens de n[ost]re execucion tantost apres n[ost]re decez, pour icelle som[m]e convertir par iceulx religieux en l'acquisicion de cent [= 100] [/34] livres tournois de rente ou de tant qui'ilz en pourront avoir et acquerir au prouffit de ladicte eglise et monastere de Saint Anthoine et a la charge que dessuz.）

[11]　同じく、さらにシトーについて上述されたのと全く同様の負担で余のブルゴーニュ伯領において通常サン・クロードと呼ばれるサン・トヤン・ド・ジュウの修道士ら、修道院長および修道院に対し[32]、トゥール貨100 £ の償還定期金を遺贈する。この定期金の購入について余の存命中にその者らに与えなければ、余は以下のように望み命じる。即ち、国王良貨金額1,500 F が以下に指名される余の遺言執行人の命令によって余の他界後すぐに余の執行財産からその者らに与え引き渡され、その金額が上述サン・トヤンの教会および修道院のため上述の負担においてこの修道士ら、修道院長および修道院によって上述トゥール貨100 £ ないしは先の金額で得られるだけの定期金の取得に換えられる。(Item, et en oultre a toutes telles et semb[lab]les charges que dit est dessuz de Cisteaulx, donnons et laissons aux religieux [/35] abbé et couvent de Saint Oyant de Joulx appellé com[m]unement de Saint Glaude en n[ost]re conté de Bourgoingne cent [= 100] livres tournois de rente amortie, pour laquelle rente achater se en n[ost]re vivant ne leur baillons, voulons et ordonnons que la som[m]e de quinze cens [= 1,500] frans de [/36] bonne monnoie roial leur soit baillee et delivree par l'ordonnance de noz executeurs cy dessoubz no[m]mez des biens de n[ost]re execucion tantost apres n[ost]re decez, pour icelle som[m]e convertir par iceulx religieux, abbé et couvent en l'acquisicion desdictes cent livres tournois de [/37] rente ou de tant qu'ilz en pourront avoir et acquerir au prouffit de ladicte egli[s]e et monastere de Saint Oyant et a la charge que dessuz.）

[12]　同じく、以下のように望み命じる。即ち、ブザンソン、オタン、シャロン、マコン、オセール、アミアン、アラス、カンブレ、トゥルネそしてテルアンヌの大司教座ないしは司教座の教会の各々において、余が他界した日に命日の年ミサ、つまり前夜ミサと翌朝の慰霊ミサ［あわせたもの］を毎年続けて挙げること。これを執り行うために余は、上述の教会の各々

に対し、一度に国王良貨金額300Ｆ、つまり上述10教会に対し3,000Ｆに上る金額を遺贈し、上述の諸教会に資して命日の年ミサの負担を支えるために定期金購入および収入に用い換えられる。(Item[33], voulons et ordonnons que es eglises metropolitaines et cathedrales de Besancon, Ostun, Chalon, Mascon, Auxerre, Amiens, Arras, [/38] Cambray, Tournay et Therouenne et en ch[asc]une d'icelles soit fait et celebré ung obit et an[n]iversaire solennel ch[asc]un an p[er]petuelment a tel jour que yrons de vie a trespas, c'est assavoir vigilles le soir et la messe de requien a note le landemain, et pour ce f[er]e donnons [/39] et laissons a ch[asc]une desdictes egli[s]es pour une fois la som[m]e de trois cens [= 300] frans de bonne monnoie royal qui montent pour lesdictes dix egli[s]es trois mille [= 3,000] frans, pour l'emploier et convertir en l'achat de rentes et revenues au prouffit desdictes egli[s]es et pour en supporter [/40] la charge desdiz obis et an[n]iversaires.)

[13] 同じく、以下のように望み命じる。即ち、一切の定期金は、余の当該遺言書を通じて余が永続的な基金を命じ［与え］る教会によって、この遺言書において余がそれらの教会に遺贈する金額から購入されるもので、その現金を支払うことなく償還される。今後必要が生じれば余はそれらを償還し、以下のように命じる。即ち、余の相続人によって同様に償還され、これについて上述の諸教会に対し然るべき形式での文書を与えること。そしてこれらの定期金が封および裁判の外で取得されることを望み欲する。(Item, voulons et ordonnons que toutes le[*sic*] rentes, qui par les eglises esquelles par ce p[rese]nt n[ost]re testament ordonnons p[er]petuelles fondacions, seront achatees des som[m]es de deniers par nous en cedit testament donnees et laissees a icelles eglises, [/41] soient amorties sans en paier finance, et desmaintenant pour lors en tant que mestier est, les amortissons et ordonnons que par n[ost]re hoir soient semb[lab]lement amorties et sur ce baillees l[ett]res ausdictes egli[s]es telles et en telle forme qu'il appartendra, et lesquelles rentes [/42] voulons et entendons estre acquises hors fiefz et justice.)

[14] 同じく、余のブルゴーニュ公領および伯領、シャロレ、マコネ、オセロワ、ブラバント、リンブルフ、フランドル、アルトワ、エノー、ホラント、ゼラントそしてナミュールの、余の諸地方の四つの托鉢修道会の修道院すべてに対し、余と上述した人々の霊魂の救済のために一度はその各修道院で命日の年ミサを執り行うため各修道院に一度に20Ｆを遺贈する。(Item, donnons et laissons a tous les couvens des quatre ordres mendians de noz pays de noz duchiez et contez de Bourgoingne, Charrolois, Masconnois, Auxerrois, Brabant, Lembourg, Flandres, Artois, Haynnau, Hollande, Zellande [/43] et Namur a ch[asc]un d'iceulx couvens vint [= 20] frans pour une fois pour faire ung obit et an[n]iversaire solennel ch[asc]un d'iceulx couvens une fois pour le salut des ames de nous et des personnes dessusdictes.)

[15] 同じく、さらに余の都市アラス近郊のドミニコ会修道士ら、フランシスコ会修道士らおよびカルメル会修道士らの修道院に対し、余は一度に金額1,000Ｆ、つまりドミニコ会修道士らの修道院に400Ｆを、他の二つの修道会の修道院各々に300Ｆを遺贈する。この金額が戦争のために打ち壊されたその教会および修道院の建物の修復に換え用いられる。その条件と

して上述の修道院の修道士らは、余が他界した日に、命日の年ミサをこれら三つの修道会の各修道院で毎年続けて挙げさせなければならない。(Item, et en oultre aux couvens des freres prescheurs, des freres mineurs et [/44] des carmes lez n[ost]re ville d'Arras, donnons et laissons la som[m]e de mil [= 1,000] frans pour une fois, c'est assavoir au couvent des freres prescheurs quatre cens [= 400] frans et a ch[asc]un des autres deux couvens, trois cens frans, pour icelles som[m]es convertir et emploier es reparacions et refecti[o]ns [/45] des ediffices de leurs egli[s]es et couvens qui ont esté abatuz et demolis pour le fait de la guerre, et moiennant que les religieux desdiz couvens seront tenuz de faire celebrer ch[asc]un an p[er]petuelment en ch[asc]un d'iceulx trois couvens ung obit et an[n]iversaire solennel a tel jour que [/46] yrons de vie a trespassement.)

[16]　同じく、以下のように望み命じる。即ち、余の執行財産から国王良貨金額10,000Ｆが取られ、それは余の他界後できる限り早く以下に指名される余の遺言執行人の命令によって、ブルゴーニュ公領および伯領、シャロレ、マコネおよびオセロワの諸伯領の余の諸地方の貧しき教会、施療院（*hospitaulx et maisons dieu*）に対し与え引き渡されることを望む。(Item, voulons et ordonnons que de noz biens et de n[ost]re execucion soit prinse la som[m]e de dix mille [= 10,000] frans monnoye roial, laquelle voulons estre donnee, baillee et distribuee le plus tost q[ue] faire se pourra bonnement apres n[ost]re decez par l'ordonnan[ce] [/47] de noz executeurs cy apres no[m]mez aux povres egli[s]es, hospitaulx et maisons dieu de noz pays des duchié et conté de Bourgoingne, contez de Charrolois, Masconnois et Auxerrois.)

[17]　同じく、同様に国王貨幣同額10,000Ｆが余の上述の遺言執行人の命令によって取られ、ブラバント、リンブルフ、フランドル、アルトワ、エノー、ホラント、ゼラントそしてナミュールの、余の諸地方の貧しき教会、施療院に引き渡されることを望み命じる。(Item, pareillement voulons et ordonnons semblable som[m]e de dix mille [= 10,000] frans monn[oie] roial estre [/48] prinse et distribuee par l'ordonnance de nozdiz executeurs aux povres egli[s]es, hospitaulx et maisons dieu de noz pays de Brabant, Lembourg, Flandres, Artois, Haynnau, Hollande, Zellande et Namur.)

[18]　同じく、余の宮内（家政）の家人および従僕に対し、一度に金額20,000Ｆを遺贈する。その奉仕に何らかでも報い、その者らが余に主への祈りを捧げなければならないからである。この金額は、余の上述の遺言執行人とその命令によりこれら家人と従僕の間で分かち合われる。つまり10,000Ｆを余の他界時に余に仕えた騎士、平騎士、評議官、書記官、礼拝堂付き司祭らに対し、各々その身分と余により長く仕えたかどうかに従って［遺贈し］、また、より良く用いられ、より必要とされた者、そして余からあまり利益を得ることのなかった者に対して［与える］。そして残りの10,000Ｆの定期金は、料理人、鷹匠、狩猟係、下僕、召使いその他以下の者らのようにより低い身分の者らに対し、各々その身分とより良く用いられ、そしてより長く仕えた者、そして上述のように余からあまり利益を得ることのなかった者に対して［与える］。(Item, donnons et laissons a noz familliers et s[er]viteurs de n[ost]re hostel la som[m]e de [/49] vint mille [= 20,000] frans[34] pour une fois, pour les recompenser aucunement

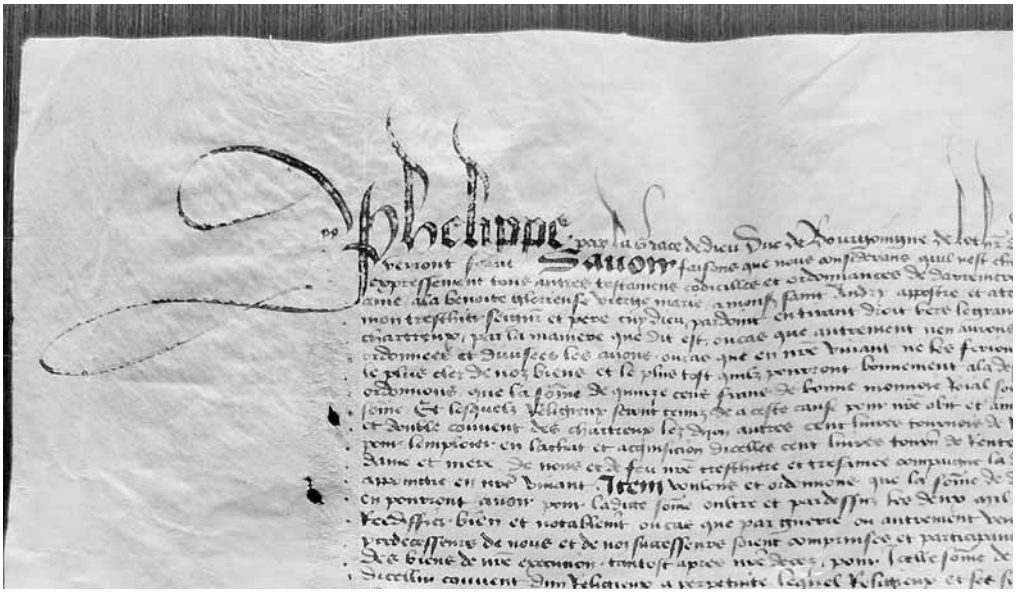
de leurs s[er]vices et afin qu'ilz soient plus tenuz de prier Dieu pour nous a les distribuer entre iceulx familliers et s[er]viteurs par nosdiz executeurs et par leur ordonnance, c'est assavoir dix mille [=10,000] frans aux [/50] chevaliers, escuiers, conseilliers, secretaires et chappellains qui nous s[er]viront au temps de n[ost]re trespas, a ch[asc]un selon son estat et selon qu'ilz nous auront plus longuement servi, et ou il s[er]a mieulx emploié et qui plusgrant besoing en auront et de nous auront eu moins de [/51] prouffit, et les autres dix mille [= 10,000] frans de rente a gens de moindre estat, com[m]e queux[35], faulconniers, veneurs, varlez, servans et autres gens au dessoubz, a ch[asc]un selon son estat ou il sera mieulx emploié et qui aura plus longuement s[er]vi et eu moins de prouffit de nous com[m]e [/52] dessuz.)

[19] 同じく、以下のように望み命じる。即ち、余が余の親愛なる伴侶たる公妃［イザベル・ド・ポルチュガル］に対し複数の土地および領主領についてなした贈与および譲渡、そしてまたその寡婦産の充当は、余がこの者に与えた財産ないしはその一部から遺贈しうるという［特権］授与とともに、この者に対し効力を有し（*bons et valables*）たままであり、これらをその各々につき余の伴侶のために当該遺言書によって確認する。(Item, voulons et ordonnons que les dons et transpors que avons fais a n[ost]re treschiere et tresamee compaigne la duchesse de pluseurs terres et seignouries et aussi l'assignacion de son douaire avec les octrois que fais lui avons de povoir tester des biens que [/53] donnez lui avons ou d'une partie d'iceulx, lui soient et demeurent bons et valables et les confermons et ch[asc]un d'iceulx par cest n[ost]re p[rese]nt testament au prouffit d'icelle n[ost]re compaigne.)

[20] 同じく、以下のように望み命じる。即ち、余が余の侍従や、身分はともかく他の従僕に対し終身限りで与えた贈与、褒章、官職および年金は、その者らが余から得た文書の内容に従ってその者らが存命中はその者らに帰するままである。(Item, voulons et ordonnons que les dons et recompensacions, offices et pensions que [/54] avons donnez a vie a noz chambellans et autres servite[ur]s de quelque estat qu'ilz soient leur demeurent leur vie durant, selon la teneur des l[ett]res qu'ilz en ont de nous.)

[21] 同じく、余は余のすべての財産、土地および領主領における包括相続人かつ継承者を、余の親愛なる息子シャロレ伯にしてシャテルブラン領主たるシャルルとし、指名し指定する。万一この者が余よりも前に他界するのを主が欲するようなことがあれば、そして余の他界時に他の子、つまり余か余の上述の息子の直接の血筋を引く男系ないしは女系の嫡出相続人をもたなければ、その場合余は以下のように望み同意する。即ち、余の土地、領主領および財産は余の姉妹、甥、従兄弟およびより血縁の近い近親者にわたりこれを継承する。この者らには分相応にそれらすべてがわたり、以下に指名される余の遺言執行人の手によってその命令において、当該遺言書を履行する責任を負って継承することになる。(Item, nous faisons, no[m]mons et instituons n[ost]re heritier et successeur universal en tous noz[36] biens, t[er]res [/55] et seignouries, n[ost]re treschier et tresamé filz Charles, conte de Charrolois et seigneur de Chasteaubelin, et s'il avenoit que Dieu ne vueille qu'il alast de vie a trespas devant nous, et que au temps de n[ost]re decez, nous ne ayons autre enfant ou hoir legitime masle ou [/56] femelle

descendant de n[ost]re corps ou de n[ost]redit filz, en ce cas nous voulons et consentons que noz terres, seignouries et biens escheent et succedent a ceulx et celles de noz suers, neveux, cousins et parens plus prouchains, ausquelz selon raison elles devront escheoir et [/57] succeder le tout a la charge de l'accomplissement de cest n[ost]re p[rese]nt testament par la main et a l'ordonnance de noz executeurs cy apres no[m]mez.）



フィリップ・ル・ボンの第二遺言書（1441年）冒頭部分 (ADN, B 456, no. 15764)　※筆者撮影

註

1）SCHNERB, B., *Jean sans Peur. Le prince meurtrier*, Paris, Payot, 2005, p. 100 ; PETIT, E., *Itinéraires de Philippe le Hardi et de Jean sans Peur, ducs de Bourgogne*（*1363-1419*）, *d'après les comptes de dépenses de leur hôtel*, Paris, 1888, p. 553 ; DE GRUBEN, Fr., *Les chapitres de la Toison d'or à l'époque bourguignonne*（*1430-1477*）, Leuven, Leuven UP, 1997, p. 57.

2）公フィリップ・ル・ボンの簡潔な伝記的情報については差し当たり以下の文献を参照。そこに関連文献も挙げられている。DE SMEDT, R.（dir.）, *Les Chevaliers de l'Ordre de la Toison d'or au XVe siècle. Notices bio-bibliographiques*, 2e éd., Frankfurt am Main etc., P. Lang, 2000, p. 1-2.

3）第 1 妃のフランス王女ミシェル・ド・フランス（Michelle de France）との結婚に関しては、幼少期に婚約がなされ、1409年には結婚に至ったが、同公妃は1422年 7 月 8 日に夭逝した。また、第 2 妃ボンヌ・ダルトワ（Bonne d'Artois）は、第 3 代公フィリップからすれば叔父にあたりアザンクールの戦いで1415年に没したヌヴェール伯フィリップの寡婦である。ボンヌの祖父はベリィ公ジャンで、母マリ・ド・ベリィの 3 人目の夫はブルボン公ジャンであった。公フィリップとは1424年11月30日に再婚したが、翌1425年 9 月17日に時を経ずして亡くなった。この間、1424年 1 月24日には、公フィリップの母マルグリット・ド・バヴィエール（Marguerite de Bavière）も没している。DE SMEDT（dir.）, *Les Chevaliers de l'Ordre*, p. 1 ; VANDER LINDEN, H., *Itinéraires de Philippe le Bon, duc de Bourgogne*

(*1419-1467*) *et de Charles, comte de Charolais* (*1433-1467*), Bruxelles, Palais des Académies, 1940, p. 25, 36, 43, 50, 82.

4) 金羊毛騎士団創設の日付は、正確には1430年1月10日。DE GRUBEN, *Les chapitres de la Toison d'or*, p. 3 ; DE SMEDT (dir.), *Les Chevaliers de l'Ordre*, p. 3.

5) 1430年12月30日にブリュッセルにおいて長子アントワーヌが生まれたが、1432年2月5日に1歳余りで亡くなり、その年の4月24日にヘントで生まれた次子ジョスは、4か月ほど後の8月21日に没した。このような中で、1433年11月11日に第3子シャルルがディジョンに生まれたのであり、同月30日にディジョンのサント・シャペルにおいて開催された第3回金羊毛騎士団総会で、生後3週間ほどの赤子シャルルの騎士団加入が許されたのは異例のことであった。公位継承者として立派に成人してほしいとの親の切なる願いが込められていたことは想像に難くない。なお、公フィリップは嫡出子には必ずしも恵まれなかったが、知られている限りで妾33人に非嫡出子26人がいたとされる。また、イザベルはポルトガルのエヴォラ (Evora) で1397年11月21日の生まれ。SOMMÉ, M., *Isabelle de Portugal, duchesse de Bourgogne. Une femme au pouvoir au XVe siècle*, Villeneuve d'Ascq, PU du Septentrion, 1998, p. 21, 42, 50-51, 55 ; DE GRUBEN, *Les chapitres de la Toison d'or*, p. 176-177 ; VAUGHAN, R., *Philip the Good. The Apogee of Burgundy*, London, Longman, 1970 (new ed., Woodbridge, Boydell, 2002), p. 133.

6) なお、公妃の遺言については、イザベルのものが伝来し、M.ソメによって刊行されている。SOMMÉ, M., Le testament d'Isabelle de Portugal et la dévotion moderne, *Publication du Centre européen d'études bourguignonnes* (*XIVe-XVIe s.*) [= *PCEEB*], no. 29, 1989, p. 27-45 ; Archives départementales du Nord (Lille) [= ADN], B 457, no. 16200.

7) GAUDE-FERRAGU, M., Métamorphoses testamentaires. Les dernières volontés de Philippe le Bon, duc de Bourgogne (1426 ; 1441), dans KASTEN, B. (hg.) *Herrscher- und Fürstentestamente im westeuropäischen Mittelalter*, Köln, Böhlau, 2008, p. 457-486.

8) 詳細については次節および後掲註を参照のこと。

9) シャンパーニュ地方都市ランスの北東に位置する。

10) PLANCHER, Dom U. / MERLE, Dom Z., *Histoire générale et particulière de Bourgogne*, Dijon, 1739-1781 (2e éd., Paris, 1974), 4 vol., t. III, p. c-cvi, pr. CV ; ADN, B 455, no. 11607. なお、第一遺言では、公フィリップに嫡子がいない場合、その四姉妹の間で分割相続されることが定められていた。GAUDE-FERRAGU, Métamorphoses testamentaires, p. 479.

11) GAUDE-FERRAGU, M., *D'or et de cendres. La mort et les funérailles des princes dans le royaume de France au bas Moyen Age*, Villeneuve d'Ascq, PU du Septentrion, 2005. また、邦語ではイングランドに関して、新井由紀夫『ジェントリから見た中世後期イギリス社会』刀水書房、2005年、特に第六章 (155–209頁) におけるマーガレット・パストンの遺言書の分析が参考になる。イングランド以外の先行研究についても同書183–185頁註5に詳しい。

12) なお、公フィリップは1467年6月15日にフランドルのブルッヘで没した。検死後、6月21日に同市のシント・ドナース参事会教会において厳かな葬儀が催された。同公の臓腑は埋葬され、遺体も菩提教会シャンモル修道院への移送まではここに安置された。というのも、後継者の第4代公シャルルは、微妙な関係にあったフランス王ルイ11世への対応のため、すぐには南部の支配領域に向かうことができなかったからである。結局、6年半余り後の1474年1月23日に公シャルルによる初めてのディジョン入市が果たされた後、亡き先代公フィリップの遺体は2月11日にシャンモル修道院に埋葬された。DUBOIS, H., *Charles le Téméraire*, Paris, Fayard, 2004, p. 139-143, 326-330.

13) それら修道院・教会機関の概要については後掲註を参照のこと。なお、これらの修道院は、初代フィリップ・ル・アルディの遺言および第3代フィリップ・ル・ボンの第一遺言においても、金額は若干異なるとはいえいずれも定期金設定の対象となっている。GAUDE-FERRAGU, Métamorphoses

testamentaires, p. 463-464, 473-476 ; PLANCHER / MERLE, *Histoire générale et particulière de Bourgogne*, t. III, p. ci-cii.

14）TABBAGH, V., Pouvoir épiscopal et pouvoir ducal dans les Etats des ducs Valois de Bourgogne, *PCEEB*, no. 38, 1998, p. 15-29.

15）ADN, B 456, no. 15764. Cf. PEIGNOT, G., *Choix de Testamens anciens et modernes, remarquables par leur importance, leur singularité, ou leur bizarrerie, avec des détails historiques et des notes*, Paris, Renouard ; Dijon, V. Lagier, 1829, t. 1, p. 102-114. G.ペニョ『遺言書選集』におけるかなり部分的な翻刻を参照はしたが、表記に関しては誤りも散見され、もちろん補正も行った。なお、ペニョ版入手にあたっては、金尾健美氏に便宜を図って頂いた。その際、ペニョ版の不完全さもご指摘頂き、本稿作成のきっかけともなった。ここに記して謝意を表する次第である。

16）角括弧［　］は、訳者が語を補って訳したことを示している。

17）PEIGNOT, *Choix de Testamens*, p. 102.「フィリップ」以下の文言が、ペニョ版102頁に部分的に翻刻されていることを、以下同様に示しておく。

18）原文における省略文字も角括弧[ ]で示す。

19）以下、史料原文における本文の行数をこのように示す。例えば、[/1]は、ここまでが本文 1 行目であることを表している。

20）PEIGNOT, *Choix de Testamens*, p. 103.

21）初代公フィリップ・ル・アルディがディジョン西郊に創建したカルトジオ会修道院。同公による1385年 3 月15付文書が公式の創建文書であるが、既に1377年からその準備は始められており、1383年に同公の公妃マルグリット・ド・フランドルによって定礎が行われた。そして同公の1386年 9 年13日付遺言書において、その墓所と定められた。ほとんどの教会建物は同公の存命中に完成しているが、有名なクラウス・スリューテル作『モーゼの井戸』は1404-05年、ジャン・ド・マルヴィル、クラウス・スリューテル、クラウス・デ・ヴェルフェ作『フィリップ・ル・アルディの墓』は1410年と、いずれも同公没（1404年 4 月）後に完成された。SCHNERB, B., *L'Etat bourguignon, 1363-1477*, Paris, Perrin, 1999, p. 125-133 ; VAN NIEUWENHUYSEN, A., *Les finances du duc de Bourgogne Philippe le Hardi (1384-1404). Economie et politique*, Bruxelles, Ed. de l'Univ. de Bruxelles, 1984, p. 433-436 ; *Art from the Court of Burgundy. The Patronage of Philip the Bold and John the Fearless 1364-1419*, Dijon / Cleveland / Paris, 2004, p. 212-235.

22）PEIGNOT, *Choix de Testamens*, p. 120-121, n. B.

23）「償還定期金」については、第13条項に規定がみられる。ここでは原語に従って「償還（する）」（amortir）の訳語をあてた。こうした遺言書による定期金の設定は、一般的には一定の基金（ないしは物件）を与え（寄進し）、それを元手に支払われ（償還され）ていくようである。それ故、「定期金の購入（*achater ; achat*）」という表現は若干不適切かもしれないが、その他の用語との混同を避けるため、ここではそのまま訳語にあてている。「祈りの代償として、遺贈基金（財産）ないしはその運用益からの定期金の入手（支払い）」ほどの意である。ラルース版『中古フランス語辞典』で « acha(p)ter » の項目には、① « Se procurer »（入手する）、② « Payer »（支払う）、の意がある。VINCENT, C., *Eglise et société en Occident (XIIIe-XVe siècle)*, Paris, A. Colin, 2009, p. 137-139 ; GREIMAS, A. J. / KEANE, T. M., *Dictionnaire du moyen français (la Renaissance)*, Paris, Larousse, 1992, article : « acha(p)ter ».

24）上掲註23を参照のこと。

25）PEIGNOT, *Choix de Testamens*, p. 104.

26）消去後、恐らく « dire » と後世の手になる加筆。

27）ボーヌのカルトジオ会修道院は、ユード 4 世（Eudes IV）によって14世紀前半に創建された。ROSSIGNOL, C., *Histoire de Beaune*, Beaune, Batault-Morot, 1854（réimpr., De la Tour Gile, 1996）, p. 195-201.

28）リュニィのカルトジオ会修道院は、ラングル司教ゴティエ・ド・ブルゴーニュ(Gauthier de Bourgogne) によって1172年にディジョン北方シャティヨン=シュル=セーヌ (Châtillon-sur-Seine) の近くに創建された。GAUDE-FERRAGU, Métamorphoses testamentaires, p. 476, n. 103.

29）シトー修道院は、ディジョン南郊のシトーの森に建てられたシトー会修道院の総本山 (母修道院)。1098年にロベール・ド・モレーム (Robert de Molesme) によって創建され、聖ベネディクトゥス戒律に従う改革派修道院としてヨーロッパ中に名を馳せた。また、カペ家ブルゴーニュ公の菩提教会となる。PACAUT, M., *Les ordres monastiques et religieux au Moyen Age*, nouv. éd. aug., [Paris], Nathan, 1993, p. 139 et suiv.

30）このクレルヴォ (*Clerevaulx*) 修道院を、ゴド=フェラギュはフランシュ=コンテ地方 (旧ブルゴーニュ伯領) ジュラ県ロン=ル=ソニエ(Lons-le-Saunier)近くのシトー会修道院とするが、筆者 (訳者) は聖ベルナールが創建した著名なクレルヴォ修道院 (シャンパーニュ=アルデンヌ地方オーブ県) ではないかとみている。理由はジュラ山中に « Clairvaux(-les-Lacs)» なる地名あるいはあまり知られることのない教会こそ見出せても、ゴド=フェラギュが指摘するようなシトー会の修道院 (abbaye) は見当たらないからである。また、聖ベルナールがディジョン郊外で生まれ、その修道院自体もディジョンとは関係が深かったことも理由の一つである。しかし現状ではそれ以上のことは不明である。GAUDE-FERRAGU, Métamorphoses testamentaires, p. 475, n. 100 ; GRAS, P. (dir.), *Histoire de Dijon*, Toulouse, Privat, 1981, p. 70.

31）伝承に拠れば、フランス南東部ドフィネのヴィエノワ地方にベネディクト会モンマジュール (Montmajour) 修道院の分院に隣接して1095年に施療院が建てられた。この分院が隠修士聖アントニウスの聖遺物を保管しており、それが当時流行していた「聖なる火」(mal des ardents) と呼ばれる感染性の壊疽性麦角中毒の患者を治癒したことから施療院が建てられたようである。しかし、両者の間には紛争が絶えず、1247年に施療院は聖アウグスティヌス会則に従うアントニウス会の修道院 (couvent) となり、さらに1297年に再度教皇勅書によって、両者はアントニウス会に有利な形で合併し、修道院 (abbaye) に昇格した。その後、この聖アントニウス修道会施療院は各地に広がっていった。KINOSSIAN, Y., Hospitalité et charité dans l'ordre de Saint-Antoine aux XIVe et XVe siècles, dans DUFOUR, J. / PLATELLE, H. (dir.), *Fondations et oeuvres charitables au Moyen Age. Actes du 121e congrès national des sociétés historiques et scientifiques, section histoire médiévale et philologie* (*Nice, 1996*), Paris, CTHS, 1999, p. 217-230.

32）サン・クロード修道院は、リヨン司教区の北辺に430年代に二人の隠修士兄弟ロマン (Romain) とリュピサン (Lupicin) によって創建された。当初コンダ (Condat) と呼ばれたこの修道院は、512年頃に亡くなった修道院長オヤン(Oyend)の名からサン・トヤン・ド・ジュウ(Saint-Oyend de Joux)の名で親しまれ、さらに中世後期には 7 世紀後半の修道院長クロード (Claude) の名も採るようになる。ベネディクト会修道院として発展し、多くの巡礼者を集めた。ブザンソン司教区南部に有したその広大な領域は、12世紀に公認されて「サン・トヤンの地」(*terra sancti Eugendi*) と呼ばれ、その後「サン・クロードの地」(*terra sancti Claudi*) の名も併用された。*Itinéraires monastiques jurassiens entre Franche-Comté et Suisse*, Centre Jurassien du Patrimoine, Lons-le-Saunier, 1997, p. 16 ; BULLY, A. / BULLY, S., L'abbaye de Saint-Claude (Jura) à la fin du Moyen Age. Enjeux et enseignements d'un grand chantier, *Revue d'histoire de l'Eglise de France*, t. 97, no. 238, 2011, p. 5-33, p. 6-7.

33）PEIGNOT, *Choix de Testamens*, p. 105.

34）PEIGNOT, *Choix de Testamens*, p. 106. 但し、ペニョによって « frans » は « livres » に勝手に置き換えられている。一々指摘はしないが、その他でも綴り字の変更は多々みられる。

35）« cuisiniers ».

36）PEIGNOT, *Choix de Testamens*, p. 107.